

国際学会を経験して

工学府電気電子工学専攻M2 吉田 成是



はじめに

平成25年6月30日～7月3日にスロベニアのブレッドで開催された18th International Conference on Dielectric Liquids (ICDL) 2014に参加し、研究発表を行いました。以下に各学会に参加して得たものや所感等を述べたいと思います。

発表内容

まず研究内容について述べます。私が所属する匹田研究室では高電圧機器の絶縁診断技術に関する研究を行っています。私はその中でも大容量油入り変圧器複合絶縁システムの

高電界放電現象解明と設計手法合理化への適用を目的として、日々研究を行っております。

今回の国際学会では、変圧器複合絶縁システムを模擬した電極系を用いて試験し、絶縁物バリアによるバリア効果や、油中沿面放電進展特性に関する発表を行いました。

国際学会で感じたこと

液体関係、特に、液体絶縁、ナノ粒子混合エステル、流動帯電など、自らの研究に密接に関係する世界の研究動向を知ることができ、大変貴重な情報を得ることができました。

今回の国際学会では、スロベニアでの発表ということもあり、ABBやシーメンスといった世界を代表する重電メーカーの研究者や、その企業と共同研究を行っている学生さんの方、そして、液体絶縁の権威の方が参加者の大多数を占めていました。世界を代表する企業や研究

者が注目している技術等を学ぶことができ、大変参考になりました。また、自分が来年からは同じ分野に進むことから、この学会に参加した人達と競い合う必要があり、より一層勉強しなければならぬと思いました。

後輩に伝えたいこと

私は今回の国際学会が4回目の国際会議への参加となりましたが、その都度貴重な体験をし、今までに自分にはなかった価値観などを学ぶことができています。後輩の皆様には、国際学会に行く機会があれば、是非とも挑戦すべきだと思います。

また、国際学会を通して、発表や質疑応答する際には、今まで自分がやってきたことに自信を持つことが、大事であるなど感じました。

国際学会では英語で議論するため、語学を流暢に話せるだろうか、英語を聞き取れるだろうか、というように不安になってしまいました。

しかし、発表や質疑応答では、英語力よりも、研究内容の方が重要なので、こちらの英語が多少下手でも理解してもらえます。また、他者の

発表も興味を持って聴くことにより自然と伝えたいことは理解できます。英語力というのは言語の問題でしかなく、英語力も重要ですが、それよりも学会で重要なのは研究内容であるということ強く感じました。あとは、自分の中に、これだけ研究をやってきたんだという自信があれば、自然と伝わるのかなと思います。

謝辞

国際学会に参加するにあたり、奨学金を援助してくださった明専会、並びに、研究のご指導をいただいた、参加の機会を与えてくださった、匹田先生・小迫先生、研究室の先輩方、M1、及び、B4の皆様にご心よりお礼申し上げます。



発表の様子